

支援継続 思い、熱く

被災地で傾聴ボランティア

海星高生が報告会

震災6年



未曾有の大震災から丸6年を迎えた11日、室蘭市内でも被災地の復興や支援の継続を願う集会やコンサートが行われ、犠牲者への鎮魂と「あの日」を忘れない祈りが交錯した。

被災者に寄り添う傾聴ボランティアとして毎年、岩手県釜石市に生徒を派遣している室蘭・海星学院高校(堺俊光校長)は、室蘭市海岸町の市民活動センターで派遣生徒による報告会「室蘭発・東北へのエール」を開いた。

動を通じて出会った人、言葉感じた思いをそれぞれ、写真のスライドとともに紹介した。「継続した支援は必要」「思いやりを行動で示せる人になりたい」。集まった約20人に経験から学んだことを自分の言葉で伝えた。

昨年7月に釜石を訪れた2年生の平川真衣さんら1、2年生5人が報告。活動を通じて被災地の現状を報告した。

地震発生時刻の午後2時46分には、参加者全員で黙とうをささげた。(菅原啓)

地震発生時刻に黙とうした海星学院高校の被災地訪問報告会